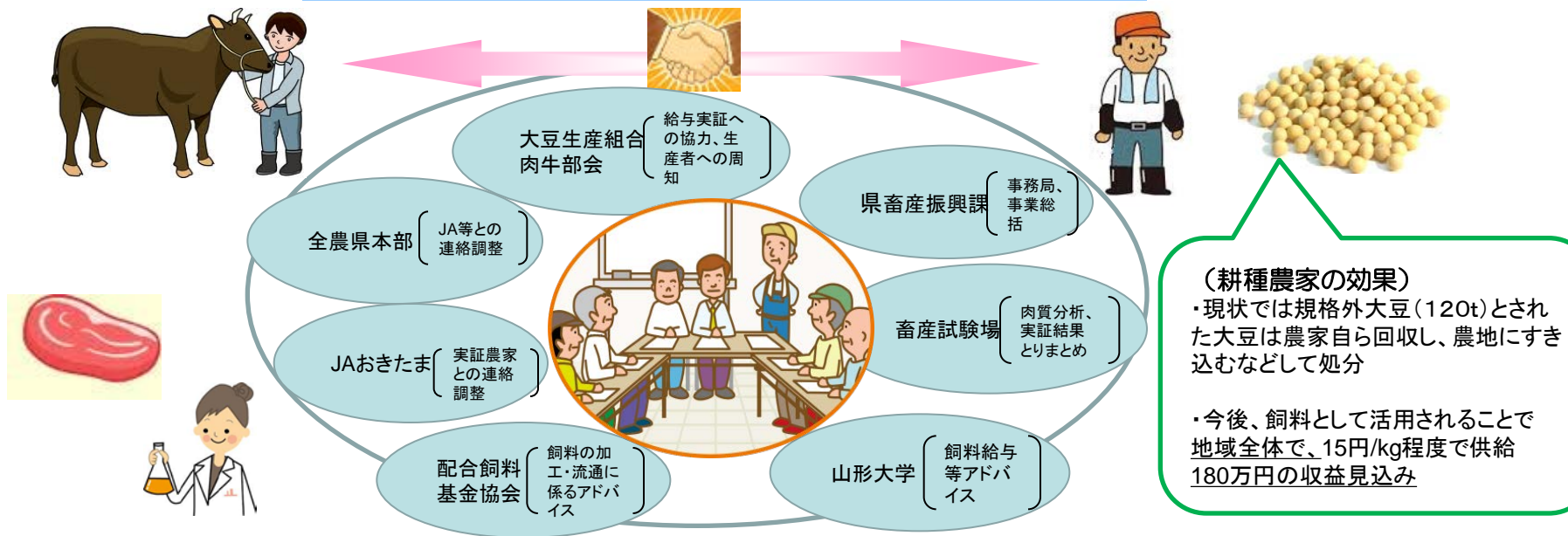


# 耕種農家も取り込んだ畜産クラスター事例① 山形県

## 山形県規格外大豆畜産活用協議会

規格外大豆を飼料として給与することで、肉質や脂質の良い牛肉ブランドを確立し、普及することにより付加価値向上とコスト低減を実現

### 規格外大豆を活用した肥育牛への給与実証



#### （実証内容）

○肥育牛に加熱・発酵処理した規格外大豆をモデル的に給与し、肉質・脂肪等を分析・調査し、生産性・コスト低減効果を実証  
この結果を踏まえ、県内の肥育農家に規格外大豆の飼料利用を普及

#### （肥育農家の効果）

- ①付加価値の向上：  
肉質や脂質の良い牛肉ブランドとして付加価値を高めて販売
- ②飼料価格の低減：  
未利用資源の活用による飼料費のコスト低減

#### 地域全体で、83 百万円の収益増【地域の収益性向上】

- 規格外大豆飼料給与1300頭 × (販売価格上昇5.2万円/頭 + 飼料費低減1.1万円/頭) = 8,190万円
- 耕種農家の収益180万円